

→明智光秀の丹波平定と亀山城址を訪ねて  
2020.10.8(日) カルチャーウォーキング  
関西文学散歩 第560回 参加報告

■光秀が築城した亀山城は、明治期に行政の管理下となったものの、維持管理がままならず放置され荒廃した。それを大正期に「宗教法人大本」が購入整備し、大本教の施設などが建てられて、今日に至っている。

午後、最初に見学したのは、大本教「みろく会館」2階の「ギャラリーおおもと」であったが、筆者はギャラリーの見学のことが耳に入らなかったこともあり、パスしてしまった。

続いて、石垣内を散策し天守閣址にも向かった。そこは現在、大本教の聖地で普段は入場を禁止されているが、特別公開中ということで、址地に立つことができた。その天守台には高さ20mほどのイチョウの大木が高く茂り、直径10数mほどの石垣で造られたドーム状のお墓のようなものがあつたが、「霊的なもの」を感じることはなかった。

ドームには、石柱の柵が張り巡らされ、「撮影はご遠慮願います」という注意喚起のほかに、標識板が立っていて「最高至聖 月宮宝座」と記されていたことは、記憶に残っている。

■光秀により始まった、亀山城の南に造られた小さな城下町には、堀や土塁が残され神社仏閣なども数多くある。この日はまず西に向かい、現在も用水路として利用されている穴太口の「外堀跡」を見学した。

その後、旧山陰街道や「本町辻子(ほんまちずし)」などの通りを、南に東にと街並み散策し、東外れの「桜の馬場跡」に着いた。この水場は「親水公園」と名付けられ、現在もきれいな水が流れる共同水場になっている。水草が流れの中を浮き沈みしていて、嘗て馬廻りと馬たちの憩いの場であったことを今に伝えている。

■西方向、駅の方に向かい再び南郷公園に来た。ランチタイムの時は、濠の縁を歩いたので気づかなかったのだが、駅から100mほど真南、公園の真ん中に光秀公の銅像がある。高さ5mの銅像は北を、つまり駅の方を向きJRで亀岡を訪れた人を歓迎するかのように佇んでいる。

亀山城主として、町の礎を築いた智将・明智光秀公を、ゆかりの地である亀岡の新たなシンボルにしようと建立され、令和元年5月3日、除幕式が行われたとのことである。

制作は、亀岡市内在住の彫刻家である田路雅敏さんの手によるもので、戦国武将としての猛々しさよりも智将・文化人としての、また多様な側面のある謎多き人物としての、光秀公を表現したとのことだ。



南郷公園の光秀公銅像

■14時すぎに駅に戻ってき、解散。その後は「大河ドラマ館」は自由見学となった。ドラマ館は亀岡駅の北側、京都サンガスタジアム内の特設会場に今年1月にオープンしたもので、展示面積が520㎡と大河ドラマ最大級の規模とのことである。

筆者は、この館を見学することなく帰途についたが、帰路のJRに乗り合わせた参加者はごく少数であったことを最後の報告といたします。

(報告 2020/10/19・石元英雄)



親水公園